

優秀賞

## 幾つになってもプライド

福岡県 井室 秀子

ふり返ると79年の私の人生は、失敗の連続だった。

多くの失敗の中で一番大きな失敗は、私の心ない言動で友人や知人、先輩のプライドを傷つけてきた事である。

認知症の人が暮らすグループホームでの事。入浴が嫌いで何日もお風呂に入らないAさん。

そんなAさんに私は思わず「3日もお風呂に入らないなんて汚いでしょ。今日は絶対お風呂に入りますよ。」と上からの物言いをしてしまった。

ひどくプライドを傷つけられたAさんは、怒り心頭。「どうしてあなたに命令されてお風呂に入らんといけんのネ。ゼ・ッ・タイ私は、お風呂入らん！」と完全に拒絶されてしまった。

どうすれば気持よくAさんは入浴してくれるだろうか？浴室にさえ入って貰えれば不思議にその後の流れはスムーズにゆくのに。

色々悩んだ末、ふとひらめいた。

そうだAさんは若い頃看護師だった。これを活用しよう。

入浴の時間。私はAさんの耳に小声でさ、やいた。「Aさんちよっとお願いが——。お尻に腫れ物が出来ちゃって。恥ずかしいけど見て貰えませんか？」

Aさんは心配そうに「じゃあちよっど……」という訳で、私といっしょにトコトコ歩いて浴室へ。

めでたくお風呂をすませたAさん。小ざつぱりしたAさんの姿に私は思わず心の中で「バンザイ」と叫んだ。

どんなに年を取っても、認知症がひどくなろうとも、人により差こそあれ最後まで残るもの。それがプライド＝尊厳。

お互いのプライドを尊重し思いやる事で、人間関係をスムーズにし、仲よく暮せる。

こんな大事な事をAさんから学ぶことが出来た。